北鹿新聞　2023年（令和5年）8月30日（水曜日）

秋田職能短大

ものづくり支え30周年

9月に記念式典　地域と連携し人材育成

開校30周年を迎えた秋田職業能力開発短期大学校（大館市字扇田道下）

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）は本年度、開校30周年の節目を迎えた。北鹿地方で初の高等技術教育機関として誕生し、ものづくりを通して地域に貢献できる人材育成に力を入れてきた。9月に記念式典・講演会を開くほか、来年春には記念植樹も予定している。

技術者2千人超輩出

大館市清水町にあった秋田技能開発センターが改組して、1993年4月に開校。初年度は生産技術、電子技術、情報処理、住居環境、産業デザインの5学科で、1期生116人が入学した。複数回の学科再編を経て、現在は生産技術、電子情報技術、住居環境の3学科。本年度は1、2年生112人が在籍している。卒業生総数は2351人を数える。

離職者の再就職支援のため99年からは離職者訓練コースを開設。在職者の技能・技術向上のための短期講習「能力開発セミナー」も長年開いており、受講者数は延べ5000人超。充実した設備と実践的な実習で高い専門性を持つ技術者を養成、輩出してきた。

地域との連携にも力を入れている。2009年には、キャリア教育充実に向けて関係機関・企業が情報共有を図る「おおだて発人間力創造コンソーシアム」を設立。大館のふるさとキャリア教育の発展に寄与した。

13年に発足した県北地域ロボット人材育成実行委員会（現・おおだてロボット人材育成コンソーシアム）も主導し、ロボット教室や大会を開催。科学技術と人間力を併せ持つ人材育成に取り組んできた。このほか、教職員や学生を派遣した各学校でのものづくり支援、地域のイベント企画・出展なども積極的に行っている。

本年度は開校30周年を迎えるに当たり、記念事業を計画。9月13日に大館市のプラザ杉の子で記念式典・講演会・祝賀会を開く。ボストンコンサルティンググループのシニア・アドバイザー、吉本明子さんが「これからの人材育成とダイバーシティ」と題して講演する。